

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名                     白石市立小原中学校                     (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園       小学校       小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校       中高一貫<sup>※注2</sup>       高等学校

教員養成大学       専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む    ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒989-0233

宮城県白石市小原字伊勢原道上1

E-mail info@obara-j.shiroishi-c.ed.jp

Website http://obara-e.shiroishi-c.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 7 名      女子 8 名      合計 15 名

幼児・児童・生徒の年齢13歳～15歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

当校は、「ふるさとから世界へ」を学校理念として、ESDの実践を通して自ら考え、判断し、表現できる力の育成を目標とした。

具体的には、郷土の歴史学習と郷土の芸術文化の保全と創造を柱に、①郷土の歴史に係わる学習、②郷土の芸術文化に係わる活動を行った。

### ① 郷土の歴史に係わる学習

本校が位置している宮城県白石市小原地区は江戸時代の歴史的建造物や宿場町、街道の名残が見られる地区である。その中でも、上戸沢と呼ばれる集落は、近世、江戸時代を通じ「山中七ヶ宿通」と言われ、奥羽13名の大名が往来した、七ヶ所の宿駅の一つである。このような歴史的背景を学ぶため、本校1年生と本校と同じ敷地内にある小原小学校の5、6年生が旧宿場町を訪れ、歴史的建造物や街道の様子について学習した。また、歴史的建造物の保全のために、心を込めて清掃活動も行った。

## ② 芸術文化に係わる活動

白石市内在住の和太鼓パフォーマーを講師として招き、中学校全生徒で和太鼓演奏に取り組んだ。この取り組みは今年度で6年目になる。上級生が下級生に演奏方法を教えながら、日本の伝統的な楽器である和太鼓演奏を通して、一体感を味わうことができた。校内の文化祭や白石市内の音楽祭でも披露しており、迫力のある演奏は高い評価を得ている。また、特筆すべきは、演奏に使う太鼓を小原地区内の各自治会から借りているということである。各自治会で夏祭り等において使われていた太鼓であるが、人口の減少に伴って祭りも行われなくなり、太鼓も使われずにいた。それらの太鼓を活用して生徒たちが一心不乱に演奏する姿は、地域の人々に感動を与えている。



① の写真(歴史的建造物の保全活動)



② の写真(和太鼓演奏)

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他（自由記述 _____）	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特になし。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では総合的な学習の時間の一環としてユネスコスクールとしての活動を位置づけている。年度初めに各学年で学習内容の方向性を決定し、ユネスコ協会をはじめとする外部指導者から助言をいただきながら活動を進めている。学習内容を決定する際には、郷土の自然や歴史に基づいた活動になるよう配慮している。また、学期ごとに生徒の活動の様子を評価し、指導方法の工夫改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ユネスコスクール担当という校務分掌を設け、その担当者がユネスコ協会との連絡調整や学年ごとの総合的な学習の時間における学習内容の把握などにあたっている。また、本校と同じ敷地内にある小原小学校と学年の枠を超えて活動することもあるので、小学校の担当者とも密に連携を図っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

成果として、ユネスコスクールとしての活動を通して、郷土を愛する心情を十分に育むことができたことが挙げられる。ただ、課題としては、年度初めに活動計画を立てた際に、指導者間で方向性や最終的な目標を明確にすべきであったという点が挙げられている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

今年度は外部に向けて積極的な発信は行わなかった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

今年度は他団体と連携を図って活動を進めることはしなかった。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

今年度は国内外のユネスコスクールとの積極的な交流は行わなかった。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

郷土の歴史に関する学習，郷土の芸術文化に関する活動の双方とも学年の枠を超えて実施していることに大きな意義がある。上級生が下級生に教えながら共に活動していく中で，他者と協力しながら物事をやり遂げる心情を育むことができた。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

次年度も郷土の芸術文化に関する活動（和太鼓演奏）を継続する予定である。この取り組みは複数年にわたって継続的に実施しているが，上級生が下級生に教えながらよりよい演奏を目指す姿が本校の伝統として脈々と受け継がれているからである。

また，新たな取り組みとして，隣接する町と連携を図りながら自然・環境に関する体験活動を実施する予定である。今年度は地域の伝統文化，文化遺産に関する活動のみに集中してしまったが，次年度は環境に関する活動を通して，住みよい環境を築くために積極的に地域社会に貢献しようとする心情と態度を育成したいと考えている。